

左傍に立つ

焉馬老人狂歌碑は

門を入れて右の傍

大樹のもとにあり

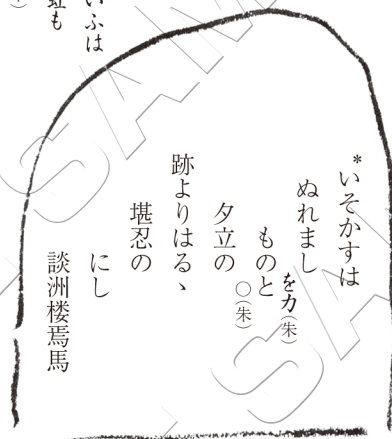
活東子云  
かな違といふは  
却て非也虹も  
ニジ也(朱)

書は\*本所石原

駒知道主人書

\*堪忍の二字<sup>ニシニテ</sup>虹と<sup>チ</sup>シのかな違也

一九オ



の右脇に「をカ」、左脇に「。」の朱書きがある。朱の書き込みは、達摩屋五一または養子の左七と考えられる（解説・研究編「第一章『式亭雜記』諸本に関して」参照）。

本所石原駒知道主人 江戸時代の筆耕。石原駒知道。亀井坊。『柳亭種彦日記』文化七年二月五日の条に「青砥一ノ巻五丁目北高方遣、石原行（傍線筆者）」（未刊文芸資料第一集「柳亭種彦日記」（一九五二）参照）とあり、石原駒知道のことではないかと考えられる。

堪忍の二字虹とシのかな違也 談洲楼の歌に対する三馬のコメント。このコメントに対し「活東子云かな違といふは却て非なり虹もニジ也」という朱の書き込みがある（口絵 図12-1参照）。朱の書き込みは、達摩屋五一または養子の左七と考えられる（解説・研究編「第二章『式亭雜記』諸本に関して」参照）。

## 一九ウ

中村屋平吉 本所尾上町（現在の両国一丁目）にあった貸座敷料理屋。文政七年（一八二四）の『江戸買物独案内』にその名が見られる。安政二年（一八五五）の大地震の記録には「尾上町川端料理茶屋中村屋平吉二階潰る。この夜踊の集合にて人多く集り即死のもの多し。同所同柏屋喜八二階座鋪潰る。」とある。

## 二一才

せんや殿 国刊本、中公本では「様」と翻刻されているが、慶大本系、東大本系の写本で確認し「殿」とした。

浅草愚弟金藏 三馬の弟。三五ウに弟平八の墓参りに行き、た

またま継母と金藏に行き逢ったことが記されている。古今亭三鳥 生没年不詳。江戸後期の戯作者。三馬の門弟。本編九一才―九五ウにかけて三鳥受難の話が記されている。

## 二二才

初編の板は焼失して 文化六年（一八〇九）の火災で初編の板木が焼失したことは、『浮世風呂』二編の序に次のように記されている。

嚮に著す男湯の浮世風呂。一篇這入た大入に。發客腹をば温たれど。湯番のあたる火と共に焚落の灰となりしは。終湯の入損ひ。今一足で噫嘻惜哉。

## 二三才

楊雄か方言を聞記じ「楊雄」は「揚雄」とも。日本古典文学大系本では「楊子方言のこと。楊雄は漢の儒者。「せんぼ」は役者の通言」、新日本古典文学大系本では「漢の儒者。宮廷に会って地方から伺候する使者の方言を記録して楊子方言を著した。「せんぼ」は浄瑠璃・歌舞伎関係者の通言。」とある。

吾山か隠語を鵲呑するとも 板本では「吾山」の部分が「半二」（近松半二）となっている。近松半二（享保十一―天明三年一七三二―一八三三）は浄瑠璃作者。儒学者穂積以貫の次男。近松門左衛門に私淑し、近松半二を名乗る。三馬の「腹之内戯作種本」（二三ウ参照）には近松半二の『独判断』「近松半二遺紳跋」の内容が記されている。吾山から半二への変更に関しては、長崎『浮世風呂』三編序文の変更に關して―吾山から半二へ―

江戸前の魚よりもきよ<sup>ら</sup>か也<sup>ら</sup>銚子九十九里の三<sup>日</sup>つり

①古めかし<sup>き</sup>芸にあらねは新場小田原町の

見功者も狂言のあちはひは<sup>し</sup>り給ふらむ

例のつたなきたはれうた

江戸の気にあふは尾上の松の魚

芸のう<sup>ま</sup>みを誰も賞歎

「閏二月廿七日より本所牛御前本地大日如来

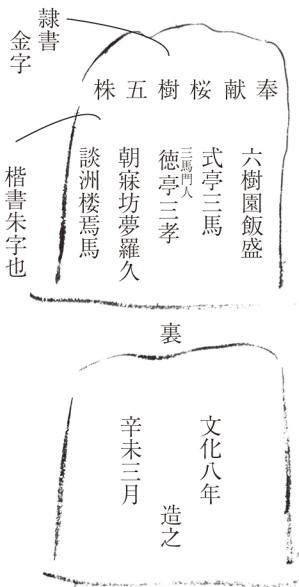
開帳あり奉納物数多ありて参詣群<sup>集</sup>①

一三ウ

談洲楼焉馬老人催主にて桜樹

五<sup>株</sup>を奉納

石面の連名 三馬拙筆



一四オ

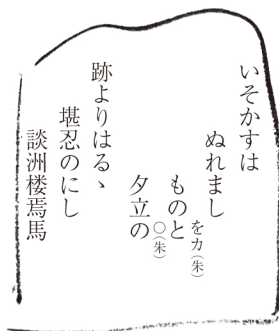
右一人分雜費金三歩二朱也

桜は門前の右の側に植けるが故ありて石面は

焉馬老人狂歌碑の左傍に立つ

「焉馬老人狂歌碑は門を

入て右の傍大樹のもとにあり



書は本所石原駒知道主人書

堪忍の二字

虹<sup>ニテ</sup>とシのかな違也 活東子云かな違といふは却て非なり虹もニジ也

一四ウ

焉馬老人は本所相生町足袋屋并大工棟梁にて

俗称和泉や和助狂名の<sup>み</sup>てうなごんすみかね

立川談洲楼といひ鳥亭とよふ別号桃栗山人

桜盤門前能右乃側尔植

介留可故安利天石面八

焉馬老人狂歌碑乃

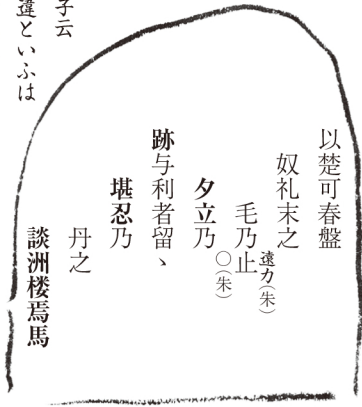
一九才

左傍尔立川

焉馬老人狂歌碑盤

門遠入天右乃傍

大樹乃毛止尔安利



以楚可春盤

奴礼末之

毛乃止  
速力朱

夕立乃  
〇(朱)

跡与利者留、

堪忍乃

丹之

談洲楼焉馬

活東子云  
かな違といふは  
却て非也虹も  
ニジ也(朱)

書盤本所石原

駒知道主人書

堪忍乃二字虹止ニシニチ乃可那違也

一九ウ

焉馬老人盤本所相生町

足袋屋并大工棟梁尔天

俗称 和泉屋和助

狂名 乃三天宇奈己无春三可祢

立川談洲楼止以比烏亭止呼不

別号 桃栗山人柿発齋

三馬友止之善

彼牛御前盤焉馬子

菩提所奈利

〔辛未三月十二日兩國波之向

尾上町中村屋平吉方尔天

二〇才

書画会 会主三馬

晴天尔天曾乃日盤諸君子

表2 自筆本『式亭雜記』に見る平仮名字母

注：( ) 内はルビの数。〈濁専〉は濁音専用と考えられる仮名。

あ	安 208(3) 阿 12(0)	い	以 213(6)	う	宇 124(6)	え	衣 8(1)	お	於 98(1)
か	加 6(0) 可 353(3) 可 <sup>ゝ</sup> 73(1) 歟 21	き	幾 164(4) 幾 <sup>ゝ</sup> 12(2) 支 10(0) 支 <sup>ゝ</sup> 1(0) 起 5(0) 起 <sup>ゝ</sup> 2(0)	く	久 201(1) 久 <sup>ゝ</sup> 9(0) 具 1	け	計 46(2) 計 <sup>ゝ</sup> 12(0) 介 42(0) 介 <sup>ゝ</sup> 1(1) 希 2(0)	こ	己 79(4) 己 <sup>ゝ</sup> 3(2) 古 25(0) 古 <sup>ゝ</sup> 1(0)
さ	左 139(4) 左 <sup>ゝ</sup> 9(3)	し	之 501(4) 之 <sup>ゝ</sup> 25(1) 志 43(0) 志 <sup>ゝ</sup> 1(0)	す	寸 1(0) 春 158(0) 春 <sup>ゝ</sup> 12(0) 須 17(0) 須 <sup>ゝ</sup> 1(0) 寿 9(0)	せ	世 46(3) 世 <sup>ゝ</sup> 1(0) 勢 36(0)	そ	曾 54(1) 曾 <sup>ゝ</sup> 5(0) 楚 20(0) 楚 <sup>ゝ</sup> 2(0)
た	太 7(0) 太 <sup>ゝ</sup> 2(0) 多 287(2) 多 <sup>ゝ</sup> 14(1) 堂 2(0)	ち	知 47(5) 知 <sup>ゝ</sup> 7(2)	つ	川 86(3) 川 <sup>ゝ</sup> 5(1) 徒 23(0) 津 1(0) 都 1(0)	て	天 426(0) 天 <sup>ゝ</sup> 28(1) 亭 7(0)	と	止 390(3) 止 <sup>ゝ</sup> 28(0) 登 3(0)
な	奈 287(1) 那 10(0)	に	仁 11(1) 尔 516(1) 丹 12(0) 二 51(0) 耳 21(0)	ぬ	奴 46(0)	ね	祢 22(1) 年 1(0)	の	乃 756(2) 能 169(0) 農 11(0)
は	波 24(0) 波 <sup>ゝ</sup> 4(0) 盤 321(0) 八 157(3) 八 <sup>ゝ</sup> 11(0) 者 55(5) 者 <sup>ゝ</sup> 9(0) 者 <sup>ゝ</sup> 2(0) 婆 34〈濁専〉	ひ	比 87(0) 比 <sup>ゝ</sup> 9(0) 飛 21(0) 飛 <sup>ゝ</sup> 1(0)	ふ	不 143(1) 不 <sup>ゝ</sup> 9(1) 婦 11(0) 婦 <sup>ゝ</sup> 2(0)	へ	部 153(0) 部 <sup>ゝ</sup> 29(1) 遍 0(0) 遍 <sup>ゝ</sup> 2(0)	ほ	保 10(0) 保 <sup>ゝ</sup> 2(0) 本 11(0) 本 <sup>ゝ</sup> 4(1)
ま	末 115(4) 満 34(1) 万 4(0)	み	美 1(0) 三 62(0)	む	武 52(0) 無 1(0)	め	女 84(1)	も	毛 291(0)
や	也 209(3)			ゆ	由 21(4)			よ	与 212(0)
ら	良 168(1)	り	利 541(3) 理 5(0) 里 13(0) 李 3(0)	る	留 293(1) 流 9(0) 類 39(0) 累 1(0)	れ	礼 142(0) 連 39(0)	ろ	呂 29(1) 路 2(0)
わ	和 11(0) 王 7(3)	ゐ	為 5(0)			ゑ	恵 6(1) 衛 1(0)	を	遠 287(2) 越 9(0)
ん	无 62(4)								